

1回の散布で 登熟を高める！

海藻エキスと2種類の天然植物抽出物を主原料とし、
光合成産物の実への転流と実の肥大を促進させる
バイオスティミュラント資材です。

近年の気候変動による環境ストレスを受けても
実の登熟を促進させ、収量の維持・向上が期待できます。

登熟へのワンショットブースター


MABOOST®
マブースト

イールダーワン®



総輸入元:  **三井物産アグロビジネス株式会社**

※1: バイオスティミュラントとは日本語に直訳すると「生物刺激剤」。近年、世界中で注目を浴びている新しい農業資材カテゴリーであり、植物の健全さ、ストレスへの耐性、収量と品質、収穫後の状態及び貯蔵などについて、植物に良好な影響を与えるものである。

イールダーワンの特徴

【特長1】1回の葉面散布で効果発揮

海藻エキスと2種類の植物抽出物(イネ科、アカザ科)を主原料とした葉面散布用液肥。1回の葉面散布で効果を発揮し、植物体内に取り込まれれば、収穫までバイオスティミュラントとしての効果が持続します。

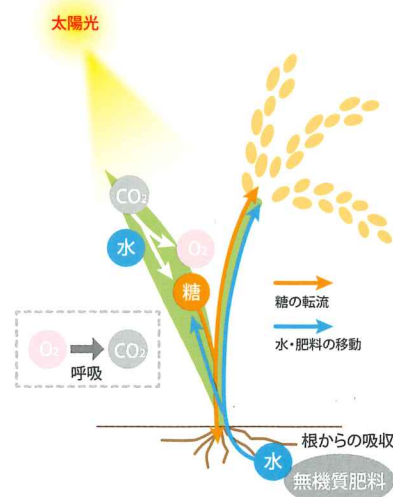
【特長2】転流 & 栄養輸送をダブルで促進

穀物の登熟過程において、光合成産物(糖類など)の子実への輸送(転流)を促進します。また、植物の発育と代謝に必要な硝酸態チッソ、微量元素(マンガン・亜鉛・銅等)の吸収と植物体内での輸送(転流)を促進させ、同時にリン酸の吸収と利用効率も高まります。

【特長3】植物ホルモンのバランスを調整

植物ホルモン(オーキシンとサイトカイニン)のバランスを調整し、実の適切な発達と成熟を促進させます。

【オーキシン:根・葉・花などの器官形成に関与。】【サイトカイニン:細胞分裂の促進に関与。】



【参考図】植物の光合成と転流の仕組み

イールダーワンの使用事例

【大豆での事例】

散布日:着莢始期(8月上旬)

施用量:200ml/水100L/10a×1回

施用方法:葉面散布

試験地:北海道

品種:ユキホマレ

調査日:10月6日



精子実収量
15%UP!!

稔実莢数
5%UP!!

100粒重
2gUP!!

★イールダーワンの施用により、転流が促進され登熟がより進行。葉の様子を比較すると、上がりが良くなっている。

イールダーワンの使用方法

作物名	使用時期	散布方法	散布量 (ml/10a/回)	散布回数	期待される効果
秋小麦	開花始期	葉面散布 (ブームスプレーヤー等)	200	1回	精麦歩合および千粒重の増加による増収
春小麦	開花始期				精麦歩合および千粒重の増加による増収
大豆	着莢始期		100~200	1~2回	稔実莢数および100粒重の増加による増収
小豆	着莢始期				稔実莢数および100粒重の増加による増収
水稻	穂ばらみ期~出穂始期	空中散布 (ヘリ、ドローン等)	200	1回	精玄米歩合および千粒重の増加による増収
トウモロコシ (スイートコーン)	本葉:4~6葉期				雌穂の肥大促進および登熟向上による増収

※500~1000倍に希釈し、使用回数は1~2回/作を目安としてください。

※農薬と混用する際には御自身で少量混用実施のうえ、安全の確認を行うことを推奨致します。またその際、濡れ性の悪い作物では、非イオン型エーテル系展着剤の併用をお勧めします。

イールダーワンの有効成分

pH		肥料の保証成分(%)			その他有効成分(%)		比重	色	規格
原液	100倍液	窒素全量	水溶性加里	マンガン	モリブデン	亜鉛			
6.2	6.5	2.0%	2.0%	0.30%	0.20%	0.495%	1.2	黒	5L(6kg)

(備考) 肥料登録番号: 輸第107606号、肥料の種類: 液状肥料

使用上の注意事項

- 農薬との混用事例もありますが、農薬混用の際は事前に少量混用試験を行い、散布に問題ないことをお確かめください。
- 強アルカリ性農薬(石灰硫黄合剤)との混用は避けてください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 施肥作業後は、洗顔やうがいをし、皮膚等への付着物を洗い流してください。
- 開封後は短時間で使い切ってください。開封後に保管する場合、密閉して直射日光を避け、乾燥した場所で保管してください。
- 散布溶液を作成した場合、当日中にご使用ください。